

安城市みらい創造研究所 研究成果報告

安城市みらい創造研究所とは

将来においても持続可能で魅力ある行政運営を行うため、中長期的視点により中立的な立場で行政課題を調査分析する自治体シンクタンクとして、平成26～28年度に、市役所内部に設置されました。

3月22日市役所において市民や自治体関係者113人を前に、研究成果報告会を開催しました。その概要を紹介します。なお、安城市みらい創造研究所は当初の目的を達成できたため、3月31日をもって廃止となりました。

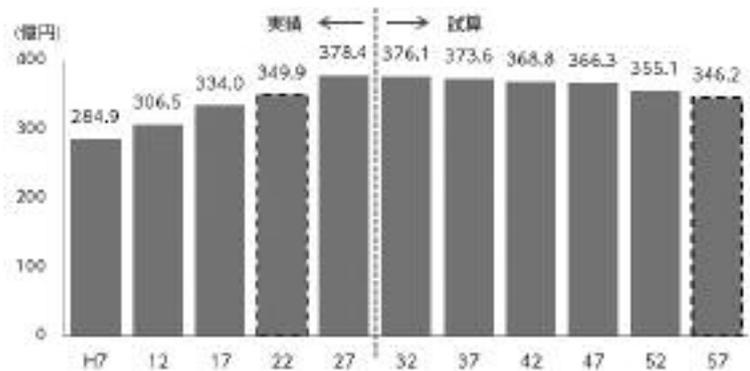
今後の安城市の財政状況に関する研究

現在の安城市は、安定した市税の収入により健全な財政状況が維持されています。

一方で、今後は、担税力の高い現役世代が減少し、高齢者の増加が続きます。こういった人口構成の変化が安城市の財政状況にどのような影響を与えるのかを分析しました。

今回は、大きな外的要因を見込まず、主に人口構成の変化に起因したものと試算をいたしました。現役世代の減少に伴い、市税の収入が減ります。30年後には、人口の変化だけで、経済危機があった平成22年の実績値まで目減りします(図)。一方で、高齢化に伴い、社会福祉に係る経費が大きく増加し、経費によつては2倍の歳出が見込まれます。こういった財政状況の変化により、諸条件を加味した最も早い見立てでは、市の貯金である基金がわずか7年後に不足する恐れも確認されました。

今後、ほぼ間違いなく直面する現役世代の減少と高齢化は、将来の安城市の財政状況に大きな影響を与えます。一見、課題がないように見える安城市の財政状況も、今後を展望すれば、



図：市税の試算結果

すでに転換期を迎えていることが分かりました。将来の難局を乗り切るため、市職員はもとより、皆さんにも、こういった状況を自分に関わるものとして考えてもらい、未来に向けて議論していく必要があります。

安城市における「コミュニティバスの持続可能な運営に向けた課題と取組に関する研究」

安城市が運営する「あんくるバス」は、市域全体に運行サー

ビスを拡大してきました。しかし、財政的制約が一層高まる将来においては、現状の運行サービスの維持はもとより、運行自体が困難となる可能性があります。

本研究では、「あんくるバス」の現状と課題について分析し、持続可能な運営に向けた取組の方向性について検討しました。

運営状況を見ると、収支率の低下や公費負担額の増加等、非常に厳しい状況となっております。持続可能な運営に向けては、収入の増加や運行経費の削減等、収益性の向上が課題となります。

「あんくるバス」の収入は、国庫補助金を除けば運賃収入のみですが、その運賃は、名鉄バス等で採用されている距離制運賃と比べて非常に低額です。また、福祉施策として高齢者等の運賃が無料化されたことから、収入の増加に向けては、無料乗車の対象ではない利用者の利用促進とともに、運行サービスに応じた適切な利用者負担を定めることも検討する必要があります。

さらに、運賃収入だけで十分な運行経費を賄うことは困難であると考えられ、新たな収入源の確保についても検討する必要があります。

また、路線別に運営状況をみ

ると、地域路線は循環路線と比べて乗車人数や運賃収入が非常に少なく、収支率が非常に低い状態にあります。そのため、地域路線は、運行経費の削減に向けて、利用状況に見合った運行サービスへの見直しを行う必要があります。

こうした課題を踏まえて、福祉交通としての側面が強い既存の路線から目的地への速達性を重視した「通勤等の利用に対応した基幹公共交通路線の設定」、「運賃収入以外の新たな収入源の確保」として広告事業の展開、住民自らが運行計画等の検討を行い、住民の移動ニーズに見合った効率的な運行を行う「住民主体のコミュニティバスの運営」の三つを提案しました。

研究の詳細は

研究の本編及び研究所の活動は、平成28年度安城市みらい創造研究所活動報告書「みらい創造」に掲載。市HP、図書館で閲覧できます。

▼企画情報課
(☎) 2204